水桜通信（TM 担当）

令和８年７月２３日（木）

TM 担当

○夏休みの研修ありがとうございました。

○教科・学年取り組み概要の交流



５ 月に作ってもらった、教科・学年取り組み概要を振り返ってもらい、成果と課題から２ 学期の取り組みを考えてもらいました。それぞれが、子どもの実態を踏まえて、めざす姿を考え、様々な取り組みを進めてくれていました。また、２ 学期の取り組みもいろいろ考えられていて、とても面白そうだなと感じました。交流した学年・教科や、興味深いところには、ぜひ参観に行ってみてください。



○四辻先生の研修から学んだこと

～「学びの必然性」を軸に授業を考える～

① 子どもが「学びたい」と思う授業になっているか

授業を考えるときは、「なぜ子どもが学びたくなるのか」を大切にすることが重要です。学びには「必然性」が必要であり、子どもが「知りたい」「聞きたい」「伝えたい」と思える場面をつくることが主体的な学びにつながります。

② 「学び方」は態度ではなく身に付けるスキル

主体的な学習とは、「やる気がある子」になることではありません。

・学び方を知る　　・試行錯誤する

・振り返る　　・次の学習に生かす

このような経験を積み重ねることで、自己調整学習が育っていきます。教師は学び方そのものを意図的に指導していくことが大切です。 学び方のスキルを教える必要がある。

③ 対話は「必要だから」生まれる

子どもは、
・自分の考えを確かめたい　　・他の人と考えが違う
・誰かに伝えたい　　・ 相手の考えを知りたい
という状況があるときに自然と対話します。
そのため、「話し合いをさせる」のではなく、話し合いたくなる課題設定が重要です。

④ 「没頭（フロー）」できる授業を目指す

よい授業とは、子どもが時間を忘れて夢中になる授業です。授業後には、
・子どもは本当に集中していたか　・課題に夢中になっていたか　・学ぶことを楽しんでいたか
という視点で授業を振り返ることが大切です。

⑤ 子どもの成長を第一に考える授業づくり

教師が授業改善を進める際には、
・学びの必然性をつくる　　・子どもの自律を育てる
・子どもが自分なりの「こだわり」をもって学べるようにする
ことを意識し、「子どもの成長ファースト」の授業づくりを目指していくことが重要です。

〇単元計画の作成



各学年・各教科で１つの単元の計画を作成してもらいました。30 分程度の時間しかとれず、時間が足りなかったところがたくさんあったと思います。すみませんでした。

今回は、めざす姿を意識してその姿に迫るための、単元の工夫や単元計画の工夫を考え、学年・教科で共有してもらいたいと考えていました。

今回話し合ったことで、考えるきっかけになったり、みなさんの考えの共有ができたらと思い、時間の設定をさせてもらいました。

今回話し合ったことを元に、夏休みを活用して、指導案作成や教材研究、単元設計を行ってもらえたらと思います。

夏休みすぐに、長い研修ありがとうございました。２学期もよろしくお願いします。